

・防災訓練

訓練の方法には、2つあります。

- ①毎年同じ訓練を行う
- ②常に新しい訓練を行う

①は、参加者に飽きられ、参加者の減少に繋がる。しかし、訓練したことを体で覚えるというメリットがあります。②については、常に新しい訓練を行う事により、以前の訓練を忘れてしまうというデメリットもあり当拠点では、ほぼこの中間のメニューで進めていきます。

つまり、必要なものは毎年行い、新しい訓練を少しづつ加えていく方法です。訓練後には、反省点を提案してもらい、次回に反映するというプロセスを踏んでいます。

・手順の文書化

防災は、継続が必須です。しかし、運営委員は、毎年変わっています。この状況では、防災技術の継続などは、不可能です。従って、可能な限り各種の実施事項についての文書化を行っています。この中には、区役所と関連のある部分については、区役所の検証を受けています。

・防災倉庫の整理

防災資機材は、市や区役所から支給されたものが雑然と収納されており、どこに何があるあるのかが誰にもわからない状況でした。まず資機材のリストを作り、2015年1月の訓練時に用途ごとに資機材配置図にまとめ、棚と現物に共通番号を付し、何が何処にあるのかが分かるようにしました。更に、夜間作業に備え、LEDセンサーライトを3台設置しました。



<中川連合町内会 今後の予定>

- ・9月18日敬老会・10月8日大運動会・11月5日第18回中川ふれあいまつり

現状の課題

・防災への意識

目に見えないもの、いつ起きるか予測できないもの、つまり災害については、意識の低い方が多いようです。何とか会員の一人一人が防災に関心を持つ風土を築いていきたいと考えます。本誌をお読みの方でよい方法がありましたら、教えてください。

・継続の困難さ

運営委員の方も毎年変わります。従って、常に継続の困難さが付きまとっています。この状況を何とか早急に解決する必要があります。

・会員家庭の防災備蓄品

これまで多くのニュースソースから防災備蓄品を各家庭で備えることの重要性そしてその例が多数紹介されています。

これに関しては、飲料水、平常より多めのトイレ紙、45Lのゴミ袋の買い置き等については自治会・町内会で秋に行われる防災訓練で、進捗状況をアンケートに取って、準備をチラシで啓蒙するしかないのが現状です。

・高齢者・障害者への対応

個人情報保護法などもあり、対象者への発災時の対応方法が確立されていません。拠点での統一方法というのも難しいようです。この件は、あくまでも各単会が単会の事情に合わせて作成するしかないようです。各単会で、区役所と十分な打ち合わせをして最善の方法を確立する必要があります。

(小泉正彦)



今後の方針

・後継者の育成

本件については、自治会・町内会活動そのものに潜在する問題です。区役所でも問題を把握し、対応を検討中です。さらに中川でも今期の目標としています。中川連合町内会の皆様とも協力して後継候補者の発掘、育成をしていきます。

・感電ブレーカーの設置

区役所の本年度の方針の中に「感電ブレーカーの設置」に区として設置価格の半分を補助することを発表しています。目下検討中ではありますが、区としても半分補助しただけで、この業務が完結したとは考えていないようです。本件については、中川防災委員会として区と協力して取り組んでいく必要があるかもしれません。現在、区と打ち合わせ中で、状況をその都度お知らせします。

編集後記

広報誌を発行して、地域課題の意見交換、情報発信を考えてきた。ようやく第1号の完成をみた。少しづつ積み重ねて実りあるものとしたいものだ。連合は、単会で抱える課題を検討することも可能だ。2025年問題のご意見を聞くと共に、身近で解決ができる事案もある。紙面に載せられないものもあるが、意見の交換や討論も可能だ。広報誌の発行だけが目的・目標ではない。本誌の効能や機能を有効に生かしたい。活発な町内会・自治会活動をみんなの手で進めるためのものである。

(小泉正彦)

中川連合町内会 小泉正彦

横浜市泉区岡津町2085

TEL/FAX 045-812-1957

nakagawa_rengou@yahoo.co.jp

中川の風

中川連合町内会広報誌

発行者 中川連合町内会広報委員会

発行責任者 小泉正彦

創刊号

発行日 平成29年9月20日

☆安全で安心の街づくり☆

<経営委員会の取り組み>

中川連合町内会は、19の自治会・町内会、25の地域の団体で組織された協力体制で、防犯、防災、環境3R夢の事業活動を展開し、福祉活動では高齢者の生活支援や認知症サポート連絡会が予防支援活動に積極的に取り組む環境づくりを進めてきた。

中川地区経営委員会では、中川地区社会福祉協議会と地域ボランティア団体が地域課題を検討しながら青少年の見守りや育成活動に取り組み、安全で安心して暮らせる街(地域)づくりに、取り組んでいる。

<防犯パトロール総決起集会>

7月23日(日)中川地区夏の防犯パトロール総決起大会が実施された。不審者に付け込まれない守りと絆を強める安全で安心な街づくり、夏休みの子どもの見守り、防犯活動を今年も行った。

身近なところでは子どもや高齢者を狙った卑劣な犯罪が後を絶たない。振り込め詐欺、ひったくり、自転車盗、オートバイ盗、車上狙いを防ぐため日々活動している自治会・町内会の防犯委員、防犯パトロール隊や自治会・町内会の役員、会員がのぼり旗をもって集まった。泉区役所地域振興課丸山課長の激励、泉警察署竹村生活安全課長が泉区の高齢者を狙う振り込め詐欺に遭わなかったための防衛対策などを講演。質疑応答のあと中川地区全地域の公園などで子どもたちに声をかけながら防犯パトロールを行った。



<認知症サポート連絡会>

中川連合町内会では、[認知症サポート]を地域課題として泉区役所、新橋ケアプラザと連携して認知症の人や家族を地域で支えたいと研修や学習活動に取り組んできた。

地域での見守りや支援は、高齢者が安心して中川地区に住み続けるため、支援活動を、一步先に進めるために地域、行政、施設が連携協働で協議会が認知症セミナーを行い、「中川地区認知症サポート連絡会」を設立した。

新橋地域ケアプラザの石川生活支援コーディネータを中心とする「中川地区認知症サポート連絡会」に登録・支援活動をする。

・連絡会の活動一

- ①認知症のことをもっと勉強する
- ②自分が認知症にならない予防法を学ぶ
- ③認知症の見守りのポイントを学ぶ
- ④認知症と思われる方に出会ったときの対応を学ぶ

等、研修会や学習会を中心とした活動で、2回目の連絡会では「地域で徘徊している方にお会いした時の対応方法」を学び、質疑や意見交換を行った。

4月17日からは施設見学と研修に取り組み、認知症の方と直に触れ合う有意義な活動が開始された。地域では要援護者が増加するなかでどこでも支える人が減っている厳しい現状がある。支えあう活動に多くの方が参加できるシステムを構築していく考えている。

<中川ふれあいまつり>

中川連合町内会と中川地区社会福祉協議会が共催する第18回中川ふれあいまつりは、11月5日(日)中川地区センターと西が岡公園周辺を会場に行われることになった。



センター周辺のふれあい広場では前回同様、熊本復興支援チャリティバザー「熊本物産の販売」やきそば、おでんだ模擬店の屋台がぎやかに並び、センター本館では防犯、防災、3R夢の啓発活動、文化芸術作品や福祉作品の展示、ステージではおなじみ隼人高校のソーラン、岡津小・西が岡小の音楽や岡中ダンス部のダンス演技。岡津中と横浜緑園高校の吹奏楽の演奏。またピアノとサクソフォンのコラボ演奏、若き津軽三味線奏者の撥捌きに沸き日本舞踊の粋な競演、地域のジャズダンスクラブの参加で地域の魅力を楽しめる地域力が結集する。

<交流で絆の醸成>

中川は、30年前の宅地開発以来多くの人が移り住み、緑に囲まれた誰でも住みたくなる環境の街になっている。開発が一段落した頃、始まった中川ふれあいまつりは、18回目を迎える。不足していた近所、近隣との交流や支え合い、互助、絆の醸成に地域間の結びつきを強くする地域福祉や、安全で安心して暮らせる街づくりに大きな影響を与え、最も効果的に働いたと言われる。中川ふれあいまつりは、多くの方の賛同参画を得て地域力の広がりと新しい伝統文化が地域に定着したものだ。今年多くの人たちが参加して中川ふれあいまつりを盛り上げて楽しむ。第18回のテーマは被災地熊本の復興を応援し続けようである。これからも被災地熊本の復興を支援していく。

<地域の活動担い手作り>

地域では、安全安心で住みやすい街づくりに向けて、諸活動を行っており、この活動基盤となっているのが自治会・町内会活動です。その担い手である役員や民生委員などは60歳代後半から70歳代の人たちが中心になっています。このような役員の高齢化に加え、任期も1年、2年で交代する自治会・町内会が多く、地域課題の検討や取り組みが思うようにできていないケースも増えてきています。また、就労期間が60歳代後半まで延長されている今日、地域の活動の担い手は、厳しい現状にありますが、自治会町内会が地域住民の日常生活のサポートに果たす役割は重要で、その担い手の育成は喫緊の課題でありながら即解決できる事柄ではなく、これからも続くであろう課題と言えます。地域を取り巻く諸情勢・諸環境を踏まえ、地域活動を継続していくため、活動のあり方を含めて、その担い手探しや担い手づくりに、取り組んでいく必要があります。

<中川連合大運動会>

50回目を迎える中川連合大運動会が10月8日（日）岡津中学校で開催される。半世紀の歴史をたどると岡津・上矢部・新橋・名瀬が合同で行ってきた。地域の発展に伴い、中川連合運動会となり、30年前には緑園が独立・激しい変動発展の中、50回を迎えると共に全町会が参加する中川大運動会を目指し、50回記念大会の成功を期しスポーツ推進委員・青少年指導員を中心に活動を開始した。

なお、弥生台自治会は今年も単独開催で34回目を迎える。



- 2 -



<里山"夢"プロジェクト>

中川地区第3期地域福祉保健計画の新規事業「里山夢プロジェクト」について、お話ししたいと思います。すでに中川地区社会福祉協議会発行の広報誌「ななかがわ」等で、お知らせしていますが「みんなでみんなのふるさとを！」をキャッチフレーズに、中川地区にお住まいの皆さんに、野菜作りをキーワードとして①気軽に集まることができる居場所づくり②地域に住むすべての人が自由に参加出来る場所③健康づくりと生きがいづくりを目指したコミュニケーション広場にしたいと思っています。畑の場所は、緑園からみやこの杜に通じる道の岡津幼稚園入口の信号をまがった所にある特別養護老人ホーム「けいあいの郷 緑園」の前に広がる畑の一角です。なお収穫した野菜で、「収穫祭 大いも煮会」を計画しています。



<19の夏祭りと盆踊りに集う>

7月15日の弥生台自治会の納涼祭を皮切りに中川地区全体で19自治会・町内会の盆踊りや夏祭りが今年も賑やかに行なわれ交流の輪が広がっている。中川が故郷になるせがれや娘、孫も一緒に参じて中川の祭り気分は、まだまだ続く。



<ロボット自動車を作ろう！>

青少年育成委員会

2012年度より企画したサイエンス探検バスツアーは、科学・文化に興味を抱き、子どもたちの将来進むべき道しるべの一助となるよう計画をし、今年で6回目を迎えます。バスツアーでは、移動時間がかかり過ぎ見学の時間が短くなることが多かったので、今回は中川地区センターの体育館にて、ロボット自動車を自ら組み立て、プログラムして自在に動かしてみる「ロボラボ教室」を開催いたします。これは、IT企業団体の方々の協力により、子どもたちに楽しみながらエンジニアの仕事や情報技術の世界を知ってもらう企画です。実際に経験体験することによって更なる興味を持ってくれることを期待します。



<中川連合防災委員会>

●最も大きいのは役所から委託された福祉相談：特に、高齢者に対する安否確認訪問が最も大きなものです。

●一人暮らし高齢者のための食事会：5月は泉寿荘で、10月は新橋地域ケアプラザにおいて、地区社会福祉協議会と共催で実施しています。

●一人暮らし高齢者在宅調査：行政からの資料をもとに、一人暮らしの高齢者の支援事業を実施。それにより、かなりの高齢者の把握が可能となりました。

●親子禅の集い：永明寺での石田禪師による法話と座禅会。

●月曜日午前の見守りパトロール。

●その他、配食、敬老会、社会を明るくする運動、共同募金などに協力しています。

<中川連合防災委員会>

防災委員会は、EU方式を取り入れ、皆で活動した方が効率的のことつまり3拠点共通の教育、啓蒙等主にソフト面を担当し、各拠点運営委員会は、区役所と直結し、発災時の避難所の運営というハード面を担当する事にしました。ここではまず防災委員会の活動を紹介します。

1. 安否確認手順の確立

発災時には、まず会員の安否確認が重要です。昨年11月にサンプル手順書を各単会に配布し、各単会の事情に合わせた手順書の作成、訓練の実施を要請していますが遅々として進んでいません。早急に構築されるようお願いします。

2. 防災マニュアルの作成

活動には手順を決めておく必要があります。4月の定例会でその参考マニュアルを紹介しました。これまで8つの単会から、資料配布要請があり、大変参考になったと言われました。一から作るのは大変ですが、参考例があれば作成し易いと考えます。大いに活用してください。

3. 防災まち歩き研修の実施

横浜市では、「ヨコハマ地震防災憲章」を決め、その中に「地域を知り、地域の中の隠れた危険を把握しておきます」と定められています。

そこで7月に防災まち歩き研修を実施しました。19単会の内17単会、34名+区役所から支援者7名が参加しました。副区長が、飛び入りで参加、大いに盛り上がりました。

各単会では、この研修で得た知識に基づき防災まち歩きを実施してください。

<中川地域防災拠点の活動>

中川連合内には、岡津小、西が岡小、領家中学校の3つの地域防災拠点があります。各々区役所と緊密な協力を得て活動しています。岡小の場合は、11単会約3,500世帯が所属し、これは中川連合の全世帯数の約半分です。3拠点が足並みを揃えて活動するために、2016年に中川防災委員会を設立しました。



岡津小防災拠点

年2回の訓練

訓練は現在年2回実施しています。11月には、運営委員を対象に避難所立ち上げ訓練をしており、毎回80人ほどが参加しています。訓練の中には手順書作りのためのものも含まれており、訓練の結果を手順書作りに繋げています。次回はこの手順書に基づいた実際の訓練をし、反省を踏まえ、訓練のステップアップに繋げています。1月には、全会員を対象に総合防災訓練を実施し毎回400名が参加しています。訓練メニューは、4種類設定し、参加者を4班に分け、順番にすべてを体験する方法をとっています。但し、この訓練は、難しさを内在しています。